



南町小だより

平成29年9月28日

つよく かしこく あたたかく

校長 福田 俊彦

この高学年の姿に

校長 福田 俊彦

連合水泳記録会で聞かれた子供の言葉。その心から紡ぎ出された言葉が、聞き手の心を動かしたのです。水泳を苦手とする子供が、どのような気持ちで、どのように水泳に立ち向かい、どのようなことを得ることができたかをうかがい知ることのできる話です。

ぼくは、昔から泳ぐのが苦手で他の人より泳げませんでした。今年は小学校最後の水泳ということで、せめてクロール25メートルは泳げるようにしたいと思いました。だから夏休みのプールにもほとんど毎日来て練習しました。しかし、息つきがうまくいかず25メートル泳ぎきることができませんでした。それでも、たくさんの練習で立ってしまう回数を4回から2回に減らすことができました。だから、悔いはないです。(中略)

今回の連合水泳記録会では、開進第二小学校、向山小学校、南町小学校の6年生皆一人一人がよくがんばっていたと思います。がんばる姿は見ていて気持ちよいものでした。来年中学に行った時に、今日のことを思い出して語り、仲よくできるといいと思います。今日のようなすばらしい連合水泳記録会ができたことに感謝したいと思います。ありがとうございました。

この6年生の言葉に、子供の学びの、成長の神髄を感じました。私は、水泳記録会の中で、各校6年生のすばらしい姿を見ることができました。心温まる言葉かけをたくさん聞くことができました。そして、最後にこの話です。目標をもち、そこに向かっていく子供の息づかい、子供の気持ちの有り様が伝わってきました。仲間を賞賛すること、更なる目標をもととすること、これまでの学びが活かされています。

水泳記録会の翌日、この6年生と校長室で話をしました。そこでの一言一言にも心が滲み出ていました。連合水泳記録会では語られませんでした。その6年生から悔いのない自分となることができたこと、多くの方々が力を注いでくれたことへの感謝の言葉があったのです。励ましてくれた家族へ、繰り返し指導を積み重ねてくれた先生方へ、そして、ともに水泳に取り組んできた仲間へ。

なぜ、このことを学校便りに取り上げたのか。話の内容に感動したこともそのひとつです。更にこの6年生が創り上げてきたものを(文化と言ってもいいかもしれません)、南町小学校の後輩に、地域、保護者の方々に伝えたかったのです。子供が子供をはぐくみ語り継がれるものではないでしょうか。